

# AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2012年6月 No.38 定価 150円  
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1  
 特定非営利活動法人 アムダ：AMDA  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 編集：AMDA ボランティアセンター  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## AMDA 東日本大震災復興支援 被災地間相互交流事業

多くのみなさまからお気持ちを寄せていただき AMDA は東日本被災地を支援する様々な活動を実施しています。その中から新しい取り組み「被災地間相互交流」を中心にご報告いたします。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【被災地間相互交流事業とは】東日本大震災から一年が経過し、外部からの被災地支援が徐々に減少している中で、各被災地では様々な問題が顕在化しています。この事業は、各被災地間を繋ぐことによって、情報や知恵を共有し新たな復興への取り組みを形成することを目的としています。また、同じ経験をした被災者同士が交流することで、被災者自らが主体となり復興への意欲を促すことができると考えています。

2012年3月4日に第1回目として、岩手県上閉伊郡大槌町と宮城県気仙沼市の交流イベント「つながろう大槌・気仙沼」を気仙沼復興商店街南町紫市場で開催しました。これにより、大槌町の一行を受け入れた気仙沼の商店街の方々から「ぜひ今度は私たちが大槌へ行って、商店街で買い物をし、大槌の人と交流したい」という声が挙がり、2012年4月9日に第2回目の被災地間交流が実現しました。第2回目は、気仙沼復興商店街南町紫市場の方々が大槌北小福幸きり商店街を訪問し、商店街の友好関係の確立および両地域の復興への協働を約束する姉妹提携の協定書を締結しました。大槌、気仙沼両地域の商店街を中心とした地域振興が進むことにより、今後の復興のモデルとなることを期待しています。

### 【被災地間交流参加の大槌町地元 AMDA スタッフの声】

#### \* AMDA プロジェクトオフィサー 元持 幸子

はじめに、このような企画が開催できたことを感謝いたします。海沿いの町が持つ風土と、震災における境遇もかさなり短期間ではありますが、共感や相互への様々な影響を受けることができた時間となっています。住民力を引き出すきっかけや、その能力や力に気づく事は、復興のワンステップになります。住民同士や同職種同士など、より良い手本となり、自分の状況にアレンジできる相互支援の形になっています。同業者同士の交流ができたことで、互いの気付きがあった様でした。準備期間が短かったですが、住民同士が自主的にイベントを企画したのは今回が初めてで、大槌商工会、商店街の役員の方々とはとても協力的に動いてくださり、気仙沼の方々との懇談により、今後へのヒントを得られていたような印象をうけました。準備の段階から、関わってくださったことに心から感謝申し上げます。最後に、寒さの中、屋外でのイベントに参加していただいた皆様、企画から準備まで、ご尽力いただいた皆様ありがとうございました。

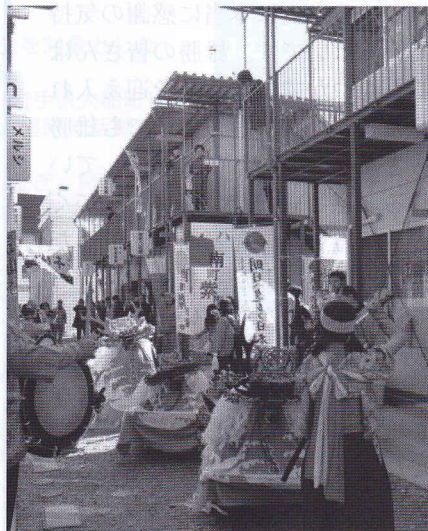
#### \* AMDA 大槌健康サポートセンター・健美館

##### 佐々木 賀奈子 鍼灸師

今回初めてだったので、反省すべきことはたくさんありますが、行動を起こさなければ感動も何もおこらないし、皆さんの笑顔が素晴らしい一日でした。気仙沼の病院、介護施設のスタッフの方々が心身共に元気で笑顔でいてほしいです。

#### \* AMDA 大槌健康サポートセンタースタッフ 大久保 彩乃

出発前はバタバタし、不安に思う面もありましたが、交流イベントが終わり、気仙沼の方とお話する機会が出来て、私自身、



↑ 感動を与えた白澤鹿子踊り

大槌町民の皆さんと復興に向けて活動していく事はもちろんですが、気仙沼の仮設に住まわれている方も元気にしていきたいと思いました。今回白澤鹿子踊りや和美東の演奏を見て、気仙沼の方が「仮設集会所でも音楽を聞かせたい。そこで住んでいらっしゃる住民の方も心のケアにつながるから。これを機会にやはり、同じ被災者が同じ目線で色々な話をする事によって、少しは気が楽になると思う」と話してくださいました。今回の交流をきっかけにこれから何かお互いに支え合っていけたらと思います。今度、時間があれば、個人的にでも改めて気仙沼を訪れたいです。そして大槌だけではなく、気仙沼との輪が広がり、東北全体で手を取り合っていくのが理想だと改めて思いました。とても勉強になり、また繋がりができた一日でした。ありがとうございました。

### 【被災地間交流プログラムに参加したの方々の声】

#### \* 大槌町からの参加者の声

- ・今まで他を見ていなかったから、訪問したことで、「ここ気仙沼も大変だ。自分たちだけではないんだ。」と思えた。
- ・今度は、大槌に来てもらいたい。その為には、もう少し商店街を見られるように盛り上げていかないと。
- ・震災や町の様子を見られたことで、「お互いに震災直後は頑張っていた。」と互いに苦勞がわかった。
- ・お店・地域を盛り上げようとしていることに感激した。
- ・商店街の姉妹交流をしようという案があり、今回はとてもいい機会になった。
- ・獅子踊り、生演奏(和美東)見て聞いて涙したり、後半拍手してリズムに乗って楽しかった。時間をつくって良かった。
- ・ほかの人にも伝えたい。昔から、大槌と気仙沼は船の関係で交流はあったから続けていくべきだ。

## 石巻市雄勝町 鍼灸治療支援活動

宮城県石巻市雄勝町は、東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた地域のひとつです。石巻市立雄勝診療所も流され、医師が居ない状況が続いていましたが、秋にはプレハブの診療所が建ち、10月からAMDA兵庫県支部の小倉医師が常勤医師として赴任し、診療を開始しました。町の中心部の壊滅に

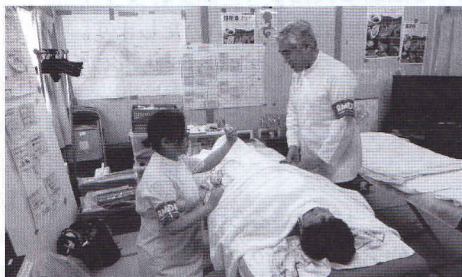
集会所など場所を変えながら、鍼灸師が地元の人々に鍼灸による健康サポート活動を行っています。これまでに4日間で、のべ30人に鍼灸治療を実施しました。(5月16日現在)

□岩手県上閉伊郡大槌町から

この活動にコーディネーターとして参加したAMDAスタッフの声

**\* AMDA 大槌健康サポートセンター  
スタッフ 大久保 彩乃**

まず、最初に移動距離があることにビックリしました。私は、普段仙台に行く際も内陸から高速で行くので、初めて沿岸沿いを走りました。志津川から雄勝に行く道も悪く、瓦礫の処理状況も全く違うので、他地域の状況を知る事ができて改めて感じる部分がありました。こんなに移動するのが大変だと思っていなかったもので、改めてこの東北に支援してくれている方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。雄勝の皆さんはとても穏やかで優しく私を迎え入れてくれました。同じ被災地でも雄勝の皆さんはとても不便に過ごしているのを感じました。鍼灸に来てくださった方もほとんど高齢者でしたが、痛みを抱えながらも元気でいる姿に逆にパワーをもらいました。問診の際に雄勝の方と触れ合う事ができて、私も一回だけでなく、これからも雄勝にいき支援したいと思うようになりました。同じ被災地でも私は恵まれているんだなと思いました。(大久保スタッフも被災し、大槌町の仮設住宅に暮らしています)



雄勝町での鍼灸での一コマ

よって、震災前に約4,300人いた住民数は1,000人前後まで減少し、過疎化・高齢化が急速に進行しています。震災から一年以上が経過した現在も、雄勝町では人手不足で過労状態の漁業関係者が多く、また山間部に生活する高齢者は交通の便が悪く、狭い仮設住宅で行動範囲が限られています。このような状況では、エコノミー症候群、メタボリック症候群、ロコモティブシンドローム(要車椅子、介護)および腰痛・肩痛・膝痛等を抱える住民が今後とも増加すると考えられます。これらの症状の軽減もしくは予防を図るため、AMDAは小倉医師と協力して鍼灸による健康支援活動を開始することにしました。

AMDAが大槌町で実施している活動をモデルに、石巻市在住の鍼灸師を雇用して4月20日から雄勝町での活動を開始しました。毎週水曜日、地域の

<1Pからの続き>

・獅子踊りを踊った。小1年からやっているが、人に見てもらえて楽しかった。

**\*気仙沼市からの参加者の声**

・同じように津波の被害を受けている人たちなので、何だか思うところが一緒な気がする。

・今日はたくさんの方が来てくれて嬉しかった。おかげで売上があがりました!

・ご支援感謝しております。おなじ思いで、被災している方々が交流出来る事が、うれしいです。

・定期的に交流したい。

・大人の獅子踊りは見た事はあるが、子供の獅子踊りは初めてでとても可愛い。



被災地間相互交流で商店街の姉妹協定調印式

AMDA 東日本大震災復興支援活動場所



月別鍼灸治療患者数 (のべ)	
2011年	
5月	56人
6月	118人
7月	144人
8月	52人
9月	98人
10月	118人
11月	112人
12月	126人
1月	73人
2月	90人
3月	120人
4月	132人

AMDA大槌健康サポートセンターイベント一覧	
2011	
12.24	AMDA 高校生会によるクリスマス会
2012	
1.05	AMDA 高岡医師による健康相談
1.07	方言カルタ大会
1.12	お茶会
1.13	お茶会
1.27	水木団子づくり教室
2.2	つるし雛づくり教室
2.3	恵方巻きイベント
2.8	ストレッチエクササイズ教室
2.9	つるし雛づくり教室
2.13	AMDA 高校生会バレンタインイベント
2.16	つるし雛づくり教室
2.17	第1回お茶会
2.24	つるし雛づくり教室
3.1	お花の巻きずし教室
3.23	第2回お茶会
3.30	ネックレス作り教室
4.5	5月人形作り
4.6	第3回「侘子」のおしゃべりクッキング
4.19	5月人形作り
5.1	第3回お茶会
5.9	避難経路の確認(防災訓練)
5.10	手芸教室

**復興支援提供物資内容 (一部)**  
AED、パルスオキシメーター、小児用キーFRX用、体温計、体重計、血圧計、吸入器、入院用ベッド、医療用エプロン、ハエトリ紙、湯たんぽ、ひざ掛け、カップめん、簡易寝袋、カイロ ほか

◆緊急医療支援期の主な活動 (2011年3月11日～4月末)

- 3.11 東北地方三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の未曾有の大地震が発生。太平洋沿岸で大津波が発生する。これを受けて緊急医療チームの派遣を決定、スタッフの派遣準備等を開始する
- 3.12 午前：第一次派遣チーム出発(3名) 仙台到着  
これを皮切りに、緊急医療支援活動ボランティアとして4月末までにのべ149名を派遣(海外チームも含む)
- 3.13 仙台市内にて第一次派遣チームが医療活動を開始
- 3.14 第1次物資便の出発(協力：両備グループ、おかやまコープ)  
これを皮切りに、4月末までに物資トラック便全8便の他、宅配などにて物資の提供を実施
- 3.15 仙台市内での医療活動開始  
仙台派遣チームが仙台に残って活動するチームと、岩手(岩手県釜石市、上閉伊郡大槌町)の調査チームの二手に分かれて活動
- 3.16 岩手県釜石市、上閉伊郡大槌町で医療支援活動を開始  
AMDA 菅波代表の要請を受け、総社市の物資トラック、電気自動車、灯油などが岩手へ向けて出発
- 3.19 AMDA 派遣チームが二手に分かれ、チャーター機で岡山空港からいわて花巻空港へ、ヘリで東京から宮城県本吉郡南三陸へ南三陸町志津川の避難所を拠点として診療活動開始  
総社市からの物資トラックと電気自動車が岩手県釜石市に到着。電気自動車を充電し、大槌町での巡回診療で活躍。
- 3.21 岡山にて緊急活動報告会を実施(AMDA 菅波代表)  
仙台市での活動を現地に引継ぎ終了
- 3.22 大槌町で、現地スタッフの雇用を開始  
総社市による豚汁の炊き出しを釜石市、大槌町で実施 (AMDA 要請・協力)
- 3.28 韓国、マレーシアからの医療チーム(6名)が大槌町で活動中のAMDA医療チームに合流
- 3.29 釜石市立双葉小学校卒業式にAMDAスタッフが招待される  
インドネシアからの医療チーム(4名)が大槌町で活動中のAMDA医療チームに合流  
避難所となっていた大槌高校の教室でAMDA東

- 3.30 日本大震災国際会議の実施。高校生を対象とした東日本国際奨学金の支給を決定する。
- 3.31 トレーラー検査ルームの設営開始(岩手県大槌町)  
タイからの医療チーム(3名)が大槌町で活動中のAMDA医療チームに合流
- 4.1 釜石市での活動を岩手県医師会に引継ぎ、終了  
AMDA医師(鍼灸師)による鍼灸治療を大槌町で開始
- 4.4 南三陸町で活動を開始したイスラエルの医療チームにAMDAから医療通訳として医師2名を派遣  
大槌町の避難所にパワープレート(トレーニングマシン)の導入
- 4.5 岡山にて緊急医療支援活動の報告と復興支援に向けた記者会見(AMDA 菅波代表)  
大槌高校体育館避難所内部に、簡易間仕切りシステムを設置(協力：坂茂建築設計事務所)
- 4.7 23時32分頃に宮城県沖の深さ約65kmでマグニチュード7.1の余震が発生
- 4.8 北山たけし氏(北島音楽事務所所属)の来訪協力をえて「魂を揺さぶる”歌の処方箋”プログラム」を南三陸町志津川小学校避難所で実施。
- 4.10 岡山県内の学生ボランティア約80人による寄贈用文具(1500セット)の仕分け作業(岡山市内・長泉寺にて)
- 4.11 ボランティアパティシエによるロールケーキの実演、提供(AMDA協力 大槌町ほか)
- 4.14 AMDA高校生交流プログラムの実施(広島県の高校生4名と引率教諭2名が大槌町を訪問～16日)  
栄養プログラム(マルチビタミンの配布)を大槌町避難所にて実施
- 4.18 南三陸町での活動を現地に引継ぎ終了
- 4.22 避難所になっていた岩手県立大槌高校の平成23年度入学式にAMDAスタッフが招待される
- 4.28 志津川病院にコンピューター、医学書、白衣などを寄贈
- 4.29 RNN(人道援助宗教NGO)による合同慰霊祭実施(宮城県石巻市、岡山市)
- 4.30 大槌町での活動を現地に引継ぎ、緊急医療支援活動としては終了。途切れず復興支援活動に移行  
復興支援活動は3か年計画で実施することが決定

◆復興支援期の主な活動 (2011 年 5 月 1 日から)

- 5.1 大槌町で復興支援事業・巡回鍼灸治療活動開始 (緊急救援 時からの継続)
- 大槌町、南三陸町で復興支援事業・被災地医療機関支援活動 開始 (物資提供や人材の派遣など)
- 6.24 AMDA 大槌クラブの設立 AMDA 高校生会大槌の誕生
- 7.18 ~ 9.30 夏季医療ボランティア派遣 (岩手県立大槌病院、宮城県・公立志津川病院、公立南三陸診療所)
- 医師 3 名、看護師 17 名、薬剤師 2 名、心理士 2 名
- 医学生・看護学生ボランティア派遣 (宮城県・公立志津川病院、公立南三陸診療所)
- 医学生 20 名、看護学生 26 名
- 7.22 ~ 7.24 AMDA 高校生会 (大槌町のメンバーと岡山のメンバー) の交流会を岡山で開催
- 7.27 気仙沼市猪苗代病院支援決定 物資の提供及び人材募集などの支援を行う
- 7.31 支援者の方へ提供を呼びかけた浴衣・甚平を大槌町のこどもたちへ寄贈
- 8.1 避難所での鍼灸治療の他に、仮設住宅での巡回鍼灸治療も開始
- 8.2 ~ 8.6 AMDA 東日本大震災復興支援スポーツ交流プログラムを岡山で開催
- 東北の 3 中学校 52 名を岡山に招へいし、岡山県内の 4 中学とサッカーやホームステイを通じた交流を実施
- 8.24 ~ 27 おかやま経済同友会主催の岡山からの大学生ボランティアツアー (大槌町でのボランティア活動) の受け入れ
- 10.1 ~ 2012.3.31 志津川病院地元看護師雇用促進協力として支援金の提供
- 11.2 AMDA 大槌・健康サポートセンター着工
- 11.13 AMDA 大槌・健康サポートセンターの上棟式
- 12.1 AMDA の東日本大震災緊急医療支援活動をまとめた書籍「AMDA 被災地へ！」が小学館スクエアより発行
- 12.1 ~ 12.4 黒住教青年部の受け入れ (AMDA 大槌健康サポートセンターでのボランティア活動)
- 12.5 ~ 1.31 冬季医療ボランティア派遣 (宮城県・公立志津川病院、公立南三陸診療所)
- 医師 1 名、薬剤師 1 名、看護師 3 名が志津川病院、公立南三陸診療所にて活動を行う
- 12.14 ~ 12.19 近畿大学学生ボランティア受け入れ (AMDA 大槌健康サポートセンターの開設準備ボランティア)
- 12.18 AMDA 大槌・健康サポートセンター開所式
- センター内の鍼灸院で治療スタート。コミュニティースペースの運用スタート (チャレンジショップなど)
- 12.20 AMDA 東日本国際奨学金 2011 年度支給分 7 校 84 名となり 2011 年度分の支給が完了
- 2012
- 1.24 震災ホームレス支援活動開始。第一次支援物資トラックが岡山から仙台に向けて出発。
- 3.4 第 1 回被災地間相互交流「つながろう大槌・気仙沼」プログラムを気仙沼市で実施
- 3.11 岡山市黒住教神道山にて開催された RNN 主催の合同慰霊祭に参加。被災地へ祈りを届けた。
- 3.13 震災ホームレス支援活動：第二次支援物資トラックが岡山から仙台に向けて出発。
- 3.17 ~ 3.20 絆コンサート in 広島 (3.18)
- 絆コンサート in 岡山の開催 (3.19)
- 3.18 ~ 4.9 春季医療ボランティア派遣 (宮城県・公立志津川病院、公立南三陸診療所)
- 医師 1 名、薬剤師 1 名、看護師 3 名が公立志津川病院、公立南三陸診療所にて活動を行う
- 3.30 「AMDA 被災地へ！」の 2 版第 1 刷が刊行
- 3.31 AMDA 東日本奨学金奨学生のうち 24 名の進路が決定し卒業を迎えた
- 4.1 公立南三陸仮設診療所が新仮設診療所へ引っ越し
- 4.9 第 2 回被災地間相互交流「つながろう気仙沼・大槌」プログラムを大槌町で実施
- 気仙沼商店街と大槌商店街の「ひょうたん島姉妹商店街連携協定」調印式を執り行う
- 4.20 石巻市雄勝町での巡回鍼灸治療プログラムを開始

# 涙、涙の絆コンサート

前岩手県立大槌高等学校長 高橋 和夫

AMDA では大規模避難所となった大槌高校の吹奏楽部を招聘し、3月18日広島市の中国新聞ホールで、19日岡山市のオルガホールで、「東日本大震災復興支援“絆”コンサート」を開催しました。随行され、4月に異動になられた高橋校長先生から、生徒への思いのあふれる感想文が寄せられました。

AMDA 東日本大震災絆コンサートで大槌高校の演奏が始まったら、いろいろな思いが交錯し涙が止まらなかった。大震災以来、多くの方々からいただいたたくさんの支援に対し感謝の気持ちを表したいとの思いで臨んだコンサートであったが、広島県および岡山県の多くの人たちに大歓迎を受け感極まってしまった。両県の多くの人たちの温かい気持ちで満ち溢れた会場で演奏できることは、生徒たちにとってこの上ない喜びであり、「生徒たちは幸せだな」と思ったら涙が溢れて止まらなかった。

吹奏楽部の14名の生徒の中には、被災した生徒も多い。家族を失った生徒もいる。父親を亡くした生徒、あるいは父・兄・祖母を一度に亡くした生徒もいる。ステージで頑張っているある生徒の兄のことが思い出され、さらに涙に拍車がかかってしまった。その兄とは、昨年の3月に卒業したばかりの生徒で、私もよく知っている生徒であった。柔道部の生徒で2年次の新人大会ではベスト4に入る活躍をした。真面目で優しく思いやりの深い生徒であった。警察官を目指し進学も決まり、4月からの入学に胸を膨らませていた矢先のことだった。3月11日、あの忌まわしい大津波が彼と父親、そして祖母を飲み込んでしまった。地震発生後、大津波警報が出された。車で出かけていた彼と父親は足の不自由な祖母を助けようと自宅に戻った。そのとき残酷にも津波に流されてしまった。車でそのまま避難しようと思えば助かったであろうが、悲しく残念でならない。その弟である生徒の演奏を聴いていたら、彼の兄のことが思い出されてならなかった。「〇〇君、弟さんは頑張っているよ。天国で見守ってね。」と、涙が

溢れ恥じらいもなくハンカチで目を拭いた。

この度の東日本大震災絆コンサートはAMDA様からご招待頂いて実現したものである。AMDA様からは震災後すぐに医療支援、救援物資の提供を受け、さらに制服支援、奨学金貸与、広島から高校生来校および生徒間交流の橋渡し、生徒の岡山県招待などたくさんの支援をいただいていた。衷心より感謝申し上げます。



筆者中央 ↓ (2012年3月19日オルガホールにて)



今回の広島、岡山両県での絆コンサートはそれぞれ歓迎と温かい心に満ち溢れ、私たちの心は感激と感動と感謝の気持ちで溢れんばかりであった。広島県では60数校の県立高校から生徒が参加し、休日にも関わらず広島県教育委員会教育長さんを始め多数の事務局の方々、また、多くの校長先生方にもご協力とご来場をいただいた。身に余る歓迎に感謝の言葉も見つからないほどであった。黒瀬高校和太鼓部、福山誠之館高校チアガール部、安古市高校吹奏楽部の皆さんにはたくさんの元気をいただいた。

岡山県では、AMDA 高校生会のメンバーに準備や運営を担っていただき、心温まる素晴らしいコンサートにさせていただいた。就実学園高校吹奏楽部との合同演奏も迫力があり、会場内の全ての人たちが圧倒され感動に包まれたと実感する。コンサート後の交流会も若さと元気に溢れ、名残の尽きないものとなった。距離的に離れていても、お互いを思いやる心は近く、強い絆で結ばれたように感じた。

東日本大震災絆コンサートはAMDA様を始め、広島・岡山両県の多くの方々にご支援をいただき、生涯忘れ得ぬ思い出深いものとなった。改めてご支援ご協力を頂いた全ての方々に心より感謝申し上げます。

..... AMDA では3年計画で東日本復興支援を継続します。皆様のお気持ちを届けます .....

## 市民参加型人道支援外交

### AMDA グループ第5回円卓会議 開催のご案内

AMDA グループを構成する各団体が一同に会し、それぞれの活動を皆様にご紹介する円卓会議を開催いたします。皆様お練り合わせのうえご来場ください事前にメールまたは電話でお申込みください。(参加無料)

【日 程】2012年7月8日(日) 受付 12:40 ~  
【会 場】岡山国際交流センター(岡山市北区奉還町2丁目2番1号)

◇第一部 円卓会議 13:00 ~ 15:00 2F 国際会議場  
◇第二部 感謝の集い 15:10 ~ 16:30 地階 レセプションホール

【参加費】第一部、第二部ともに無料(第二部は軽食付き)  
【申込方法】事前にお電話もしくはメールにてお申込み下さい。

#### ◇第一部：円卓会議プログラム概要

1. AMDA 国際福祉事業団活動報告 複合災害の被災地「フクシマ」
2. AMDA 国際医療情報センター活動報告  
電話相談を通じた在日外国人の健康と外国人を診療する医療機関を支援する21年の軌跡
3. AMDA 社会開発機構活動報告  
アジア・アフリカ・中南米6カ国の事業の現場から
4. AMDA 活動報告  
東日本復興支援事業報告・海外連携事業報告  
AMDA 高校生会による活動報告「東日本復興支援同世代交流」他
5. 参加者によるディスカッション

※円卓会議終了後、会場を地階に移動して「感謝の集い」を行います。  
【お問い合わせ・参加申し込み先】  
AMDA ボランティアセンター 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
TEL: 086-252-7700 FAX: 086-252-7717  
E-mail: member@amda.or.jp http://www.amda.or.jp

書き損じハガキを  
集めています!

皆様からいただいた書き損じはがきは、切手に交換して、通信費として使っています。未使用切手も集めています。ご協力をお願いします。

※お問い合わせは Tel:086-252-7700 Fax:086-252-7717